

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 なごみユニット		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2192200026-00&ServiceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナ感染症が第5類に変更されましたが、まだ感染対策は継続しており、対策をしながらのイベントや車でのドライブ、食レクなどで季節を感じていただいています。今年の夏まつりは4年ぶりに運営推進会議後に、ご家族様、地域の民生委員の方々にも来苑していただき、利用者様とゲームなどに参加していただきました。楽しく過ごしていただけたので、継続していきいきとした生活が送られるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者、ケアマネジャー、看護師により、利用者の状態を家族に細やかに説明している。変化があればその都度説明し、本人が穏やかに過ごせるための助言やリスクの説明も丁寧に行われている。毎月、利用者ごとに個別に写真入りの便りを作成し、家族との関係も密である。家族からの意見や要望も言いやすい環境が作られている。
 ・医療的ケアには限界はあるものの、本人や家族の意向を尊重し、医師、歯科医と連携しながら、できるだけ最期まで穏やかに過ごせるように取り組んでいる。口腔ケアや、食事の時間に配慮するなど誤嚥性肺炎を予防するしくみを構築している。身体拘束防止、虐待防止に「振り返りシート」などでケア内容を点検し、職員間で一丸となり取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。ユニットに掲げ、理念、心得を常に目にするようにし、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。	毎月の会議で理念を唱和し、話しあっている。ユニットごとのチーム目標を毎年作成し、朝の申し送りで唱和している。年度末に、ユニット会議で振り返りを実施、次年度の目標を話しあって設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられ、感染対策をしつつ地域との交流を少しずつしている状況。4年ぶりに近隣の小学校の運動会にご利用者様と観覧した。	管理者が地区の福祉委員をしており、地域の行事への参加、チラシの配布等の活動をしている。地区の小学校の運動会観戦に、利用者を出かけたり、近隣の方に野菜の差し入れを受けたりし、顔のみえる関係性作りが出来ている。中学校の職場体験も受け入れる体制が整っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に書面にて活動報告をし、意見をいただくことでサービスの向上に努めていた。今年度は第3回8月から感染対策を行い、会場にて会議を開き意見交流をする。	近隣事業所との合同開催をしている。運営推進会議後に、救命講習会や夏祭りを実施し、参加者に事業所の取り組みを直接確認してもらっている。会議で事故報告を行い、解決方法の助言を受けている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度より、2ヶ月毎に開催される海津市ケアサービス向上連絡会や、キャラバンメイト、運営推進会議等で、日頃から関わりを持ち、協力関係を築けている。	海津市から依頼をうけ、認知症初期集中支援チーム員として、在宅生活を続けられるための活動をしている。海津市ケアサービス向上連絡会、ケアプラン支援事業に参加し、市の担当者との関係性作りをしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に、施設内外で開催される身体拘束に関する研修や講習に参加することで職員全体で共通認識を持つようになっている。定期的にケアの振り返りを行い、身体拘束をしなくても安全に過ごせるような環境作りに日々取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会を3か月に1回開催している。ケアの振り返りシートを作成、身体拘束に繋がらないか話しあい、気付きや振り返りをまとめている。会議録は職員に配布し、共有している。スピーチロックを意識するため、職員にアンケートを実施。ケアの中で職員同士が声をかけて確認している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を委員会を中心に定期的に開催し、日ごろのケアにおいても虐待につながらないように努めている。	チェックリストを用いた個人点検を、年1回実施している。管理者向けにも実施している。結果を身体拘束・虐待防止委員会で振り返り、運営推進会議で報告している。研修会も実施している。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている利用者様がみえ、職員間でも知識を深める機会を作っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に十分な時間をいただき説明を行っている。都度疑問点をお聞きし、説明に不足がないか確認し、ご家族等の家族背景にも十分な注意を払いながらご本人、ご家族の不安が軽減されるよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会の際や、お手紙のやり取りの中では日頃の要望、ご意見を書いていただいている。また、ご家族様アンケートも実施し、運営に反映させている。	毎月、利用者ごとに写真を用いた便りを作成。様子や行事内容、体調なども伝えている。便りに返信用コメント欄を設け、家族から意見をもらえるように工夫している。年1回、満足度調査を家族に実施。集計し、結果を職員会議で共有している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場や、年2回の面談の場でも、意見を聞く機会を設けているが、日頃より意見や提案がしやすいように心掛けている。	面談時や、日常業務でも管理者が意見を確認している。入浴時の椅子の交換や、洗濯物が簡単に移動できるように用具を購入した。利用者にあわせた食事時間を提供したいとの意見が出たため、時間の変更を行い、ケア向上に努めた。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理者および職員の努力や実績、勤務状況を把握しながら、職員が向上心を持って働けるよう努めている。	職員の勤務時間、休日の希望を確認し、柔軟に対応している。定年制はなく、本人のやりがいや意欲を重視している。食事や休憩時の飲み物の補助や、年に3～4回、果物や海産物などの支給の福利厚生がある。永年勤務に対し、表彰もある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部・内部の研修に参加できる機会をつくり、スキルアップを図ることができるよう努めている。	介護教育マニュアルを作成し、新人研修を実施している。介護初任者研修は事業所で費用負担している。内部研修は毎月実施。外部からの講師を招き実施することもある。管理者は職員の希望を確認し、キャリアに応じた必要な研修に参加できるようにしている。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策に配慮しつつ、各事業所同士で交流(研修・会議等)する機会を増やしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人ひとりの現在までの生活や経験を知ることで、その時々々の知恵をいただき、お互いに支え合う関係を大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際にご本人ご家族に今後の生活に対する意向をお聞きし、できる限り希望に沿った生活を営めるよう工夫している。ご本人が意向を示すことができない時は、生活歴や習慣記録から情報をまとめ、本人らしい生活を続けることができるよう努めている。	センター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用し、本人の意向を確認している。1対1となる入浴時や、個室で話しを聞き取っている。意思表示が困難な方には、ケア時の反応、表情を確認したり、選択肢を提示したりし、意向をくみ取っている。様子や反応は申し送りで共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと3ヶ月に一度のサービス担当者会議にてその時々々の状況に合ったサービスの提案やケア方法などを話し合いケアの向上に繋げている。また、状態に変化がみられた際は早急にサービス担当者会議を開催し、様々な視点からの介護計画の見直しを行っている。	家族には、面会時や電話で意向を確認している。計画についての確認書を郵送し、意見を返信してもらうように工夫している。主治医や職員の意見を基に、担当者会議で話しあって計画を作成する。コメントを書く用紙で提案を受けることもある。状況に変化があれば、その都度計画を変更している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日常の様子を観察し、記録に残し変化がみられた際は朝夕の申し送りや、ノート、気づきメモ等を活用して職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに繋げている。	状態の変化は申し送りノート、朝と夕の申し送りで情報共有している。体調の変化などの重要なことは、申し送りメモでピックアップし、共有できたかどうかを管理者が確認している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれ異なる状況から入所される為、ご本人をはじめご家族の意向を細かく確認しながら安心していただける支援を目指している。	家族で通院が困難な場合は、送迎や通院の介助を行っている。独居の方が、自宅への一時帰宅を希望されたため、事業所で送迎し、自宅内も同行した。個別の事情や要望に応じて、葬祭などに付き添うこともあった。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域の方々が参加する運営推進会議で地域資源の活用等の意見や助言をいただき、利用者様の日々の生活に反映させている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人・ご家族の意向を確認した上で、ご家族の協力の元継続した受診へ繋げている。その際、施設での生活状況や体調についても記載し情報共有に努めている。定期受診のある利用者様に対しては、付き添い、送迎を行っている。	通院時は、看護師が送迎や院内の付き添いを行っている。家族が対応してもらう場合も、主治医あてに施設内の様子や変化を書面にし、情報を伝えている。訪問診療、訪問歯科診療も、希望に応じ受けられる体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中のご利用者様に対しては、面会や定期的に病院看護師やご家族と情報共有するようにしている。環境が変わることのご本人へのリスクも考慮し、治療が落ち着いた段階で早期に退院できるよう日程調整をしている。	入院先の医療連携室と、普段より顔の見える関係性を維持している。入院後には家族に希望を確認し、再入居できる状態像について説明を早めに行っている。退院の目途がつくと、病院や家族に、こまめに状態を確認し、早期に退院ができるように準備を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、看取りについての意向を確認している。状態変化時にはご家族に相談し再度意向を確認した上で医師に伝え、ケアの方向性を決めるようにしている。ご本人・ご家族が最後に時間を心穏やかに過ごしていただけるよう、体制づくりに取り組んでいる。	入居時に、看取りに関する説明を行い、意向を確認している。状態の変化がある度に、看護師が丁寧に家族に説明している。職員に人生観・死生観の勉強会を開催。本人が苦しまず、穏やかに過ごせる環境作りや、家族の気持ちに寄り添うことに重点を置いて支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や救命訓練を実施している。看護師不在時は電話連絡が取れ、対応・処置等を相談することもある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上利用者様参加型の防災訓練・避難訓練を実施している。日中想定と夜間想定それぞれ行い、昼夜問わず正しい対応ができるよう努めている。また、BCPIに基づき備蓄品等の準備・点検を行っている。	防火訓練は年に2回実施。大江川の氾濫を想定した水害避難訓練も実施した。備蓄品は年に1回チェックし、賞味期限前に非常食を食べる機会を設けた。市、社協主催の防災の研修会にも参加している。運営推進会議で、避難訓練の報告は実施しているが、地域の方の協力を得る機会はまだない状況である。	運営推進会議などの地域の方との交流の機会を活用し、地域住民の協力体制を築けるよう期待したい。

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個人への支援の際は利用者様の状態、人格等を考慮し、ご自身に合わせた対応をしている。また、個人情報や守秘義務を十分理解し、プライバシーの保護の為、責任のある言動に努めている。	個人情報とプライバシーについての研修会に参加し、職員会議で職員に伝達している。職員のキャリアに応じた「ふりかえりシート」でプライバシー保護が出来ているかを確認している。写真や居室の表札についても、同意を得てから表示している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様との会話に努め、思いや希望を知る努力をしている。スタッフ間で情報共有し、ご本人の思いが叶う支援を大切にしている。日光浴が好きな利用者様が多い為、天気がいい日にはテラスでお茶会をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者様の意向に沿うスケジュールが取れるよう努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の口腔内の状態や嚥下状態に合わせて調理し、安全においしく召し上がっていただく工夫をするともに楽しい食事になるよう努めている。食レクも取り入れている。	食べたいもの、好きなものを利用者に直接確認し、献立に取り入れている。野菜の筋とり、テーブル拭きなどを利用者が手伝っている。焼き芋パーティー、おやつ作り、喫茶店風のお茶タイムなど、レクリエーションを定期的実施している。イベント時にリクエストのお寿司をテイクアウトし楽しんだ。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給量を記録し不足がみられる場合は摂取の声かけを実践している。夏場には間の時間に水分補給の時間を設けた。食事が少ない場合も声かけにより無理のない程度に召し上がっていただいている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声かけにて口腔ケアを実施していただく習慣が整っている。介助が必要な方には居室にてその方にあつた支援を実施している。毎月歯科医院による口腔ケアの勉強会に参加し、職員の口腔衛生の知識・技術の向上を図っている。	各居室内の洗面所で、毎食後口腔ケアを実施している。年に1回、入居者全員が歯科検診を受けている。毎月、歯科衛生士による口腔ケアの方法、嚥下について勉強会を実施している。日常的に、口腔についての相談を随時行い、口腔機能の維持に取り組んでいる。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様に合わせた紙パンツやパットを選択し、夜間と日中で変更するなどしている。利用者様個々の排尿パターンを把握して、声掛けにてできるだけ失敗なく、トイレでの排泄ができるよう努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は設定してあるが、その日の体調や気分を考慮し変更できるようにし、その方に合った入浴方法で支援している。また、入浴剤を使用するなどリラックスして入浴できるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のタイミングで休んでいただいている。居室やリビングで自由に過ごされる為、就寝時間は定めていない。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は複数のスタッフで実施し、誤薬の防止に努めている。個々の内服方法を検討し、職員が統一した方法で確実に内服していただけるよう努めている。	内服方法の手順を決め、職員が2人でチェックし、誤薬事故防止に取り組んでいる。薬の変更時は申し送りで情報共有し、変化をカルテに記録している。飲みにくい場合は薬剤師にその都度相談し、粉碎することや飲み方の工夫の指導を受けている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク係が趣向を凝らし、イベントや施設内でできるレクリエーションを実施している。	趣味活動が継続できるように、物品の用意を家族に依頼している。音楽の好きな方にはDVD視聴、読経の習慣のある方、塗り絵の好きな方、など個別で取り組めるように配慮している。内庭で野菜の栽培や収穫、洗濯干し、洗濯たたみなどの利用者ごとに役割を持って生活している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の下、近隣への散歩や、ドライブを実施し気分転換に繋げている。感染拡大防止策として、ご家族等との外出は要相談にて対応中である。	本人の希望や、ゴミ出しを兼ねて近くを散歩している。季節毎には、桜、藤、紅葉などを鑑賞できるように、ドライブを実施している。感染症対策を実施しながら、家族の用事で外出する方もいる。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、基本的に利用者様の金銭所持はないが、状況に応じて対応は出来る体制である。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯持参の利用者様もみえ、電話をできるようにしている。ご希望があれば手紙やはがきの送付の支援も提供できる体制はある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけている。コロナ感染対策の為、消毒を徹底し、空気清浄機を全日運転させている。清掃専門職員の入職により清掃された環境が今まで以上に保持されている。	季節ごとに職員と一緒に作った作品を掲示している。行事の写真を掲示し、話しのきっかけ作りをしている。清潔な環境を提供するため、清掃専門の職員で環境整備している。新聞や地域の広報を用意し、自由に閲覧できるようになっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全ての利用者様が個室の為、自由に過ごすことができる空間は整っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者様に合ったレイアウトにできるようご本人やご家族と相談し家具等の配置を行っている。危険の無いように定期的に見直しを行い、模様替えを実施している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に「見守ること」を意識し、過剰な支援にならないよう努め、できることを継続できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 やすらぎユニット		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192200026-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年12月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。ユニットに掲げ、理念、心得を常に目にすることができるようし、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられ、感染対策をしつつ地域との交流を少しずつしている状況。4年ぶりに近隣の小学校の運動会にご利用者様と観覧した。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に書面にて活動報告をし、意見をいただくことでサービスの向上に努めていた。今年度は第3回8月から感染対策を行い、会場にて会議を開き意見交流をする。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度より、2ヶ月毎に開催される海津市ケアサービス向上連絡会や、キャラバンメイト、運営推進会議等で、日頃から関わりを持ち、協力関係を築けている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に、施設内外で開催される身体拘束に関する研修や講習に参加することで職員全体で共通認識を持つようになっている。定期的にケアの振り返りを行い、身体拘束をしなくても安全に過ごせるような環境作りに日々取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を委員会を中心に定期的に開催し、日ごろのケアにおいても虐待につながらないように努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている利用者様がみえ、職員間でも知識を深める機会を作っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に十分な時間をいただき説明を行っている。都度疑問点をお聞きし、説明に不足がないか確認し、ご家族等の家族背景にも十分な注意を払いながらご本人、ご家族の不安が軽減されるよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会の際や、お手紙のやり取りの中では日頃の要望、ご意見を書いていただいている。また、ご家族様アンケートも実施し、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場や、年2回の面談の場でも、意見を聞く機会を設けているが、日頃より意見や提案がしやすいように心掛けている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理者および職員の努力や実績、勤務状況を把握しながら、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部・内部の研修に参加できる機会をつくり、スキルアップを図ることができるよう努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策に配慮しつつ、各事業所同士で交流(研修・会議等)する機会を増やしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様お一人ひとりの、出来る事・やりたい事を知り、役割を持っていただきながら暮らしを共にする関係性を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない会話や、反応をみながら希望や意向の把握に努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと3ヶ月に一度のサービス担当者会議にてその時々状況に合ったサービスの提案やケア方法などを話し合いケアの向上に繋げている。また、状態に変化がみられた際はご本人やご家族の意向を反映した計画書を作成し、現状に即した内容を心掛けている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を介護記録に記入したり、申し送りノートを活用しながら職員間で情報共有するよう努めており、プランの見直しにも反映させている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人ひとりの生活歴やご家族背景によって変化していくニーズにも柔軟に対応する姿勢で、サービス提供に取り組んでいる。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域の方々から、地域資源についての情報をいただき、取り入れながら、ご利用者様の暮らしがより豊かになるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人・ご家族の意向を確認した上で、ご家族の協力の元継続した受診へ繋げている。その際、施設での生活状況や体調についても記載し情報共有に努めている。定期受診のある利用者様に対しては、付き添い、送迎を行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中のご利用者様に対しては、面会や定期的に病院看護師やご家族と情報共有するようにしている。環境が変わることでのご本人へのリスクも考慮し、治療が落ち着いた段階で早期に退院できるよう日程調整をしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、看取りについての意向を確認している。状態変化時にはご家族に相談し再度意向を確認した上で医師に伝え、ケアの方向性を決めるようにしている。ご本人・ご家族が最後に時間を心穏やかに過ごしていただけるよう、体制づくりに取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や救命訓練を実施している。看護師不在時は電話連絡が取れ、対応・処置等を相談することもある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上利用者様参加型の防災訓練・避難訓練を実施している。日中想定と夜間想定それぞれ行い、昼夜問わず正しい対応ができるよう努めている。また、BCPIに基づき備蓄品等の準備・点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個人への支援の際は利用者様の状態、人格等を考慮し、ご自身に合わせた対応をしている。また、個人情報や守秘義務を十分理解し、プライバシーの保護の為、責任のある言動に努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様との会話に努め、思いや希望を知る努力をしている。スタッフ間で情報共有し、自己決定ができる方は思いを確認しながらケアを展開するよう、また、言語化できない方には表情やしぐさから思いを汲み取るようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の天候やご利用者様の体調に応じて支援するよう心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の口腔内の状態や嚥下状態に合わせて調理し、安全においしく召し上がっていただく工夫をするとともに楽しい食事になるよう努めている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者の持病や元々の食生活、嗜好等に応じて、提供する内容、量を調整しながら支援を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声かけや一部介助にて口腔ケアを実施していただいている。要介助の方は、口腔の状態に応じた道具を用いて毎食後ケアを実施している。また、歯科衛生士の方との連携が築けており、ケアの方法等相談しながら口腔衛生に取り組んでいる。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様個々の排尿パターンや、排泄に関するこだわりを把握した上でご本人にとって一番快適に過ごせる方法をご利用者様と共に試案しながらサポートしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は設定してあるが、その日の体調や気分を考慮し変更できるようにし、その方に合った入浴方法で支援している。また、入浴剤を使用するなどリラックスして入浴できるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のタイミングで休んでいただいている。居室やリビングで自由に過ごされる為、就寝時間は定めていない。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は複数のスタッフで実施し、誤薬の防止に努めている。個々の内服方法を検討し、職員が統一した方法で確実に内服していただけるよう努めている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク係が趣向を凝らし、イベントや施設内でできるレクリエーションを実施している。また、ご利用者様のやりたいことを役割として行っていただく環境を作れるように心掛けている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の下、近隣への散歩や、ドライブを実施し気分転換に繋げている。感染拡大防止策として、ご家族等との外出は要相談にて対応中である。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、基本的に利用者様の金銭所持はないが、状況に応じて対応は出来る体制である。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は携帯持参が可能。電話をできるように支援することができる。ご希望があれば手紙やはがきの送付の支援も提供できる体制はある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけている。感染対策として消毒を徹底し、空気清浄機を全日運転させている。清掃専門職員の入職により清掃された環境が今まで以上に保持されている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全ての利用者様が個室の為、自由に過ごすことができる空間は整っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者様に合ったレイアウトにできるようご本人やご家族と相談し家具等の配置を行っている。危険の無いように定期的に見直しを行い、模様替えを実施している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に「見守ること」を意識し、過剰な支援にならないよう努め、できることを継続できるようにしている。		